

桜島学校の開校時期について

1. 概要

桜島学校の新築本体工事の入札不調により、令和8年4月の新校舎供用開始が困難となったことから、保護者や地域の方々、学校や教育委員等の意見等を伺い、各面から検討を行った。

2. 経緯

11月 8日	桜島地域の小・中学校管理職への説明 保護者等説明会
11月 8日～14日	保護者アンケートの実施
11月20日	整備検討委員会
11月21日	教育委員会定例会
11月29日	東桜島小・中学校保護者との意見交換会
12月 5日	保護者等説明会

3. 主な意見

(1) 整備検討委員会（地域住民、保護者、有識者等）

- ・8年4月の開校を目標に進めており、新校舎はできなくても、本市、最初の義務教育学校として、多様な児童生徒の中で教育を受けることが大切である。
- ・開校が遅れることで、これまでの熱心な取組みを踏まえ、学校統合への機運が落ちていくことを懸念している。
- ・教育内容について検討する時間が増えるので、現状のままでも良いと思う。

(2) 教育委員会定例会（教育委員）

- ・入札結果は残念だが、教育面を考えると、1つの学校で8年4月に開校するのが良いと思う。
- ・全く新しくスタートするよりも、新校舎が完成するまでいったん集まり、みんなで新しい学びについて考える期間があるのは良いと思う。
- ・施設面等については、万全の配慮の上で、1つの学校で8年4月に開校するのが良いと思う。

(3) 保護者等説明会・意見交換会等

- ・これまで開校準備を進めてきているので、既存の学校を使って予定通りに統合してほしい。
- ・義務教育学校として開校することで多様な考えに触れられるので8年4月が良いと思う。
- ・環境の変化が、子どもたち、特に受験生である中学3年生にとって、ストレスになることを心配している。
- ・児童生徒が安心して学校生活ができるように、なじみのある先生などの配置を考慮してほしい。
- ・新校舎完成まで、開校は延期する方が、影響が少ないので望ましいと思う。
- ・開校時期については、集計の結果も尊重すべきだと思う。

(4) 学校（桜島地域の小・中学校の管理職）

- ・これまで皆で取り組んできた様々な準備を考えると、8年4月の開校が適切だと思う。
- ・1年延長した場合、複式学級等で、その制度上、未履修となる教科が生じる可能性がある。
- ・短期間で環境が変わることは、子どもにとって体験ともなるが、ストレスにもなると思う。

4. 方向性

これまでの学校や地域の取組を踏まえるとともに、児童生徒のより良い教育環境の整備のため、保護者や地域の方々、教育委員の意見など、各面から総合的に検討した結果、既存の学校を活用し、令和8年4月に義務教育学校として開校したいと考えている。